

特定非営利活動法人

# 明るいシステム倶楽部 会報1月号

令和4年1月1日

(2022年)

## 新年おめでとうございます

本年も皆様にとり、より明るく充実した一年になりますように心より願っております。

相変わらずコロナ禍は世界中で拡散し続けており、新たなウイルス株の登場により予断は許しませんが、今の処、日本国内では相当抑えられた感染状況で推移しているようです。

さて、当倶楽部では、去年はコロナ禍の中で、曲がりなりにも「明るいセミナー」の2回開催に漕ぎつけることができ、改めて皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

昨年12月のセミナーには(株)ナオミの駒井会長にご登壇いただき、事業承継から現在注力されている社会貢献活動までの思いを熱く語っていただきました。限られた時間の中ではありましたが、ご参加いただいた多くの方々の心にも響いたご様子でした。

今回改めて、オンラインだけでなくリアルのイベントの良さも感じた次第です。

今後につきましては、コロナ禍が完全に沈静化するかはともかく、当倶楽部としては昨今の状況を社会が大転換する過渡期と捉え、試行錯誤しながらも前進して参る所存です。

本年も今まで以上にお引き立ての程、何卒よろしくお願い申しあげる次第です。

明るいシステム倶楽部 役員一同

### < 1月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 1月号
- ② ビープラッツプレス 最新号
- ③ 年会費ご納入のお願い (該当者のみ)

### < 年末年始休暇 >

- ・当倶楽部事務所の休業は、年明け1月6日(木)までといたします。

### < 1月の活動予定 >

1/8(土)	気楽なZOOMサロン <sup>⑭</sup>	当倶楽部会員専用の交流の場です。	20:00~21:30
1/19(水)	臨時役員会議 <sup>⑰</sup>	「新年のスタート」	13:30~15:00
1/19(水)	明るいシステム検討会議 <sup>⑱</sup>	「システムの基本に立ち返る」	15:30~16:30
1/21(金)	仏教雑学講座	河本 雪夫 会員	17:30~19:30

#### AKS 市民大学 (ZOOM)

1/12(水)	菊池教室 <sup>⑫</sup>	「感性を育む和学講座」	20:00~21:30
1/26(水)	柴原・松居教室 <sup>⑮</sup>	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30
1/29(土)	宮崎教室	「もやもや解決法」	20:00~21:30



虎のバウムクーヘン

—— 複眼的に見る ——

高村 和義

私たちは、日常において問題を抱え、その解決に迫られることが多々あります。会員の皆さんも問題解決の必要性に迫られ、時に悩み、時にやれやれと思われたことがあります。ところで、限られた範囲の問題や課題を解決する場合なら、一定程度の知識や経験があれば、個人又はチーム等の中で答えを見出すことはさほど難しくはないでしょう。

今回は、狭い範囲ではなく、企業なら複数部門や全社にわたる多面的な内容を含む場合、問題や課題の解決方法がないかを探ってみたいと思います。

結論的に申しあげれば、次の3つの「ものの見方」が自らの味方になるように思います。

- (1) 視野を広げて見ると、どうなるか。
- (2) 物事を時間軸で考えると、どうなるか。
- (3) 本質は何かを掘り下げると、どうなるか。



(1) は、目の前の物事を一面的でなく、多面的に見ることでしょうか。

例えば、視野を広げ視点を変えてみる。自分の職場だけでなく、関係部門の立場にもなって考えると、問題に対する景色が変わり、問題の新たな解決方法が浮かぶかもしれません。更に、より幅広い立場に立てば、「部分最適」だけでなく「全体最適」も含めた双方について考えることになります。

(2) は、通常目の前に問題があると、取りあえず当面どう対処しようかと考えます。

それ自体は何も間違っているわけではありません。ただ、その方法はより将来を考えた場合、同じ問題が発生したり、別の問題に繋がる可能性はないのか。より時間軸を伸ばし将来を考えた場合、本当に適切な解決方法なのかどうか。別の言い方をすれば、「現在最適」はクリアするが「将来最適」なのかを考えてみる必要があります。

(3) は、問題の解決方法を根本的に検討する必要がある場合、表面的な議論に終始して問題の本質を捉えていないと、真の解決策に繋がらない可能性があります。

分かり易く言えば、「応急策」は考えたが「抜本策」がおざなりになっていないかということです。

例えば、安全第一の職場では、基本動作が非常に重視されますし、不幸にも事故が発生した場合には、必ずや再発防止策が求められる所以です。

いずれにせよ、一般的に人間はつい物事を限られた範囲内で考えてしまいがちです。

特に、昨今のコロナ禍への対応のように、感染拡大防止、ウイルスの正体、医療体制やワクチンと言った医療分野のことだけでなく、疲弊した経済の立て直し、不況による生活困窮者への救済措置ほか、学校教育の在り方等々、関連分野が多方面にまたがる場合にどうするか、重い課題です。

こうした機会にこそ、より複眼的な思考が必要であり、物の見方にも柔軟性を持たせたいものです。

今回の話題は、物事の大局を見誤らないための考え方を示したつもりですが、結局は自らが当事者意識を持って考え行動に移すことが大切だと、自戒を込めてご披露した次第です。